



ASMARA

AFRICA'S
MODERNIST
CITY



Candidature for
UNESCO World
Heritage Listing

世界遺産候補

アスマラ

アフリカのモダニズム都市



目次

1. 序 2
2. 推薦資産の解説 5
3. 登録の価値証明 9
4. アスマラの管理システム15
5. 結論19
6. 署名20

1 序

エリトリアは三つの大きな UNESCO 関連条約に署名している。1972 年の世界遺産条約、2002 年の無形文化遺産の保護に関する条約、1954 年の武力紛争の際の文化財保護に関する条約である。2015 年 9 月 30 日には、エリトリアは「自然遺産及び文化遺産保護に関する法令」との名称で自国初の自然遺産保護法令を発効した。この法令に記されている通り、持続可能な保全、保護、保存、維持、国家の文化・自然遺産に関する知識と慣行を宣伝周知することは、現在と未来の世代が社会・経済、知性、芸術、文化を発展させるのに有益である。文化的多様性を認識し、法的手段を通じて文化経済を育むことは、持続可能な発展と遺産保護に不可欠なのだ。

2016 年 2 月 1 日、エリトリアは初めて世界遺産リスト (WHL) への記載を UNESCO に申請した。推薦物件は自国のモダニズム首都アスマラである。1300 ページに及ぶ推薦書は、多くの国家機関、国際政治機関に支援された、国内外のさまざまな専門家による 20 年に及ぶ共同研究の結晶である。本稿は、アスマラが世界遺産物件として重要である理由を説いた、推薦書に含まれる膨大な量の研究の要約である。

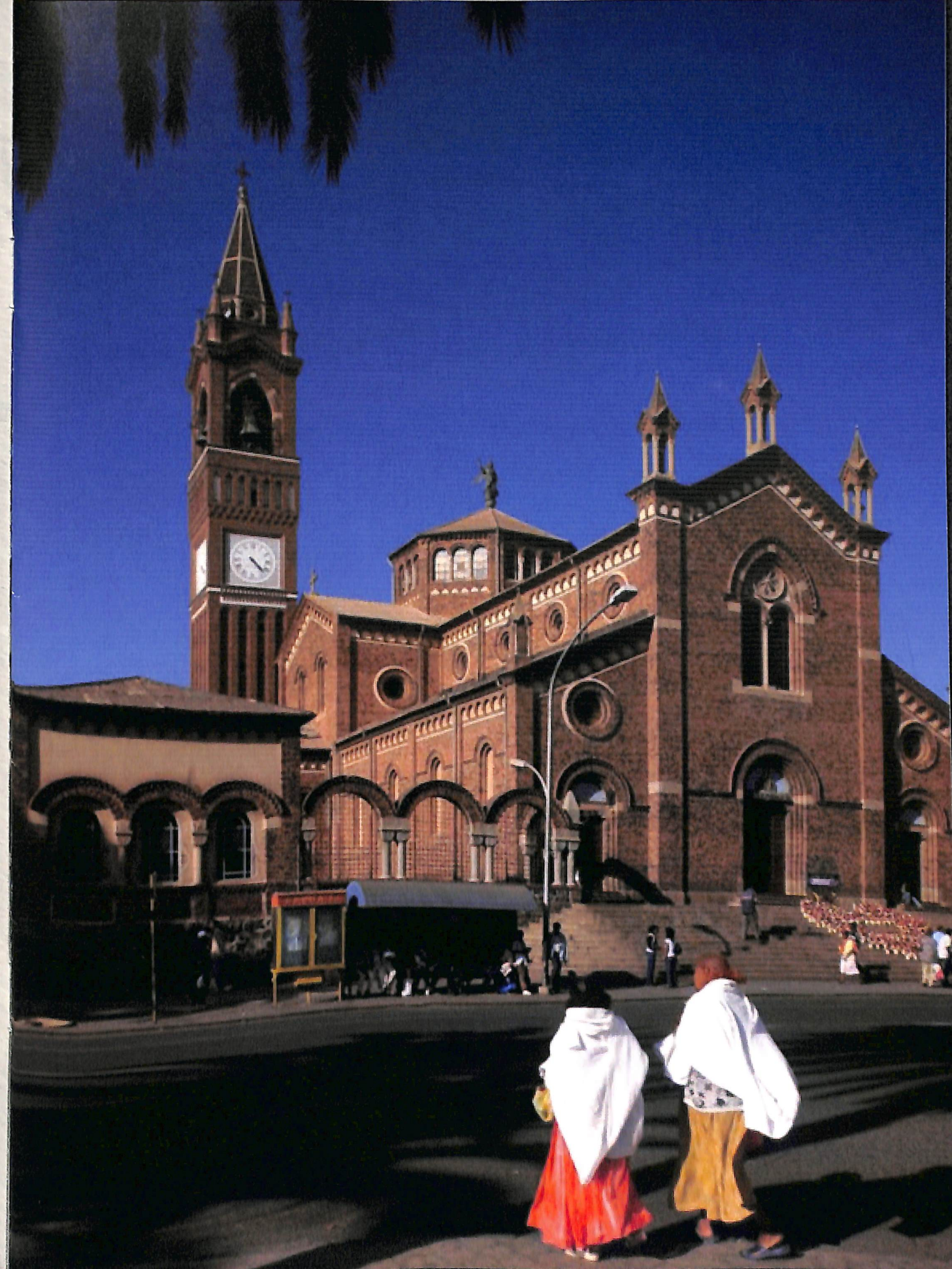
アスマラは、20 世紀における全世界的なモダニズムとの遭遇、それに続くポストコロニアル時代の経験を物語る植民地都市の傑出した例である。歴史豊かな都市部の風景は、地域の自然・文化的条件を結びつけた革新的都市計画とモダニズム建築を全域に内包している。機能別・人種別の地域区分に基づく都市計画は、アフリカ大陸の高地における現代的都市という要求に対する、19 世紀イタリア植民地からの回答を示している。建築物の特徴は、大戦前のモダニズムとその諸形態が世界的に拡散し芸術的絶頂期を迎えた 1930 年代における急速な発展の例証である。研究は世界的に蔓延する伝統的な見方に対して疑義を呈している。つまり、ヨーロッパ中心的な視座にとらわれず、植民地の遺産とモダニズムのとらえ方について再評価を求めているのだ。アスマラの植民地時代建築を保全するというエリトリアの決断は、他の多くのポストコロニアル環境と比較して、建築遺産とその解釈・扱い方に対する姿勢がまったく異なっている。アスマラを推薦することは、文化関係や遺産に対する批判的反省を促し、地域の安定と繁栄を促進する好機でもあるのだ。加えて、アスマラは、世界遺産の世界的戦略に貢献し、アフリカとモダニズム物件が WHL において比較的影が薄いことを解消する潜在能力を有しているのだ。

エリトリア政府は、自国の文化・自然遺産を保存、維持、保護して未来の世代に受け渡す計画に着手した。エリトリアはアスマラの歴史豊かな都市景観を保護管理する適切な手段を確立した。アスマラ遺産プロジェクト (AHP) の目的を達成するため、中央行政府、教育省、文化スポーツ庁は協同して取り組んできた。

AHP は中央地域区庁の主導により 2014 年に立ち上げられた。AHP は推薦書の作成・総合管理計画 (2016-2021)・災害危機管理体制・都市保存総合計画 (UCMP, 2017)・アスマラ計画規範と技術規制 (APNTR, 2017) の責任団体である。AHP はまた、全体建築、開放公共空間、インフラ調査 (4300 を越える物件の調査) を完了させ、将来における遺産のリスト化と管理の基盤ができあがった。

訳注
モダニズム：1920 年代に工業化社会を背景として成立した建築様式。機能主義・合理主義に重きをおく。19 世紀の伝統様式を否定し、コンクリート・鉄・ガラスなどの工業生産物を建材とする。
推薦書：ユネスコ世界遺産条約の加盟国が、世界遺産への登録候補をユネスコに対して推薦する文書。

(右ページ写真)ハーネット・アヴェニューの大聖堂。Oreste Scanavini 設計。





2 推薦資産について

エリトリアはアフリカの角に位置し、1993年5月に正式に独立した。北西はスーダン、南はエチオピア、南東にジブチ、北と北東は紅海と国境を接している。国は6つの行政区(Zobas)に分かれ、アスマラは首都であり、中央行政区の管轄下にある。アスマラはティグリーニャ語で「アスメラ」と発音され、文字通りの意味は「四つの村に統一をもたらした女性」という意味だ。アスメラはもともとは7世紀に現在の聖メアリー(Mariam Tsion。通常はンダ=マリウムを指す)教会の位置する一帯に築かれた。その地域はそれ以前からArbate-Asmeaとして知られており、四つの居住区域、Geza-Asmea, Geza-Gurtom, Geza-Shilele, Geza-Serensir からなる高地にある古代からの村であった。四つの居住区域はお互いに独立して暮らしており、別々に教会を持っていた。Geza-Asmeaは聖カーコス教会、Geza-Gurtomは聖ガブリエル教会、Geza-Shileleは聖ジョージ教会、Geza-Serensirは聖ミカエル教会というように。しかしながら、それらの教会は通常はMariam Tsionの教会と結びついていた。四つの居住区が享受していた調和のとれた暮らしにも関わらず、彼らは頻繁に外部の侵略者や侵入者によって攻撃を受け略奪された。伝説が伝えるところによると、厳しい干魃の年、彼らはMariam Tsion教会に集まり、全知の神に対して降雨を祈った。この機会に、女性たちは夫たちを説得する機会を得て、共通の敵に対して防衛力を高めるべく四つの村を団結させた。それ以降、新しい名前Arbate-Asmera、つまり「団結した四つの村」という新しい名前が採用された。時が流れるにつれ、Arbaete-Asmeraは短縮されて現在のAsmeraあるいはAsmaraという形になった。エリトリア人にとって、アスメラは首都であるだけでなく、非常に強固な社会的結びつきと愛着の象徴であり、愛情を注ぐ対象なのだ。モダニズム建築と都市計画のみにとどまらず、このアスマラの文化的重要性の無形の側面は、広く豊かな歴史の一部をなし、世界遺産リストへの推薦において重要なものとなっている。

アスマラは、アフリカの角に位置するアフリカにおけるモダニズム都市であり、エリトリアの首都である(図1参照)。海拔2300メートルの台地に位置し、東アフリカ地溝帯の一部をなす断崖の縁にあるZoba Maekel行政区の中心となる。国内と行政区内のアスマラの位置はそれぞれ図1と図2が示すとおりである。

アスマラの世界遺産推薦物件は、古代の地域居住区に設立された都市の「歴史的」中心部を含んでおり、1889年から1941年に及ぶイタリア支配の間に発展を遂げた。この期間に渡る都市計画の進化は当地の気候、地勢・政治・文化の特徴に左右され、世界でもっともモダニズム的な環境の1つを産み出した。数十年にわたって計画が累加された結果として、アスマラの都市設計は20世紀における全世界的なモダニティとの遭遇をアフリカの文脈で具現化したものとなった。その場所は、北部の土着的居住区Abbashawelから南部のGeheretとTiravoloの産業住宅地まで、東部の断崖の縁からFortoと西部のイタリア人墓地にまで及ぶ。この都会的な環境全域に含まれているのは、アスマラの配置を決定した現代初期における段階的・継続的な都市計画と、都市にモダニズムの特徴を付与する大多数の建物と建造物である。推薦書の詳細な説明において、アスマラは三つのテーマカテゴリーに分かれる。すなわち、都市計画、モダニズム建築、そしてアフリカの背景である。

*
緩衝地帯は推薦地を取り囲み、都市部と自然の地勢（アスマラの範囲は周辺の丘の頂と断崖の縁まで）と、都市区域（都市南部郊外の工業地域と歴史の浅い居住区域、北方向の住宅造成地）に連なっている。（図3参照）

保護地帯は緩衝地帯の東と北の外辺部を囲んでいる。これはアスマラにおいてとりわけ目をひく絵画的背景となっている断崖縁の「グリーンベルト」を保護するという目的がある。（図3を参照）

訳注
緩衝地帯 (Buffer Zone)：登録資産の保護を区的として、その周囲に設けられる利用制限区域のこと。世界遺産への推薦に際して、資産 (Property) の周辺に遺産を守るのに十分な緩衝地帯 (バッファゾーン) を設けることが求められる。緩衝地帯は遺産には含まれない。

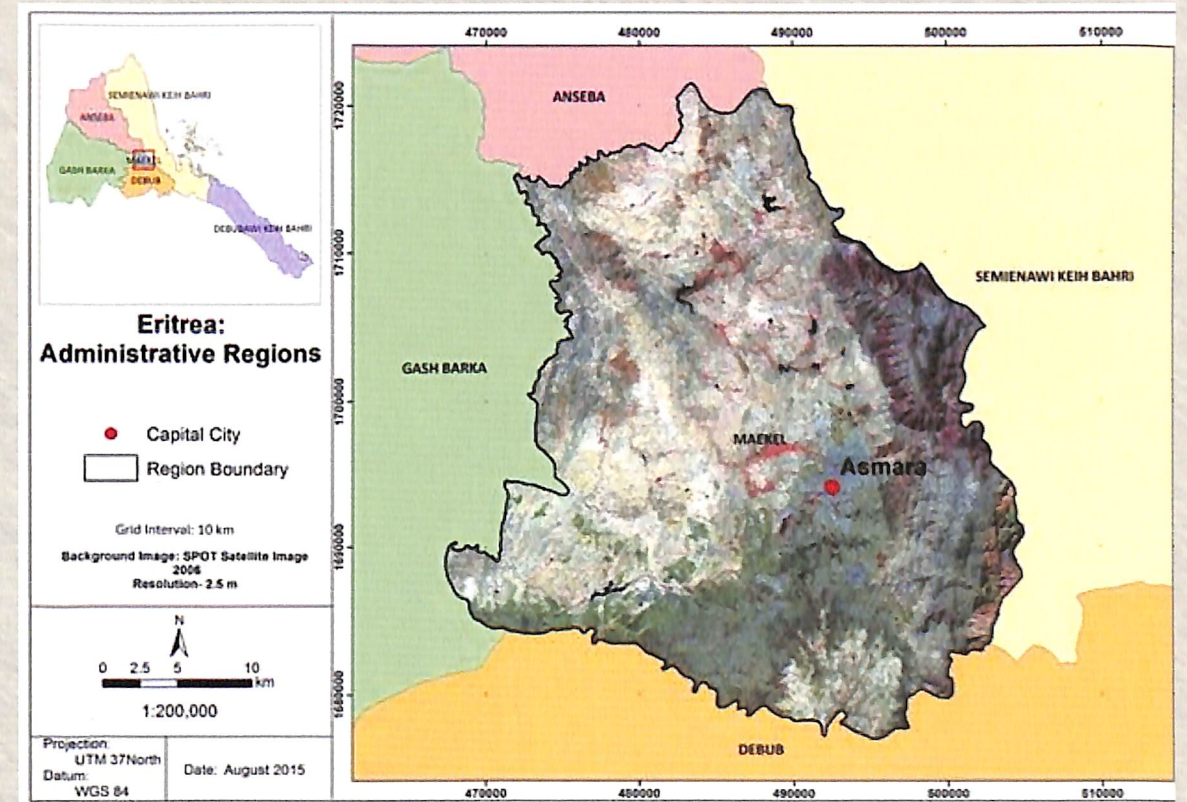


図2 中央行政区内でのアスマラの位置を示す地域図

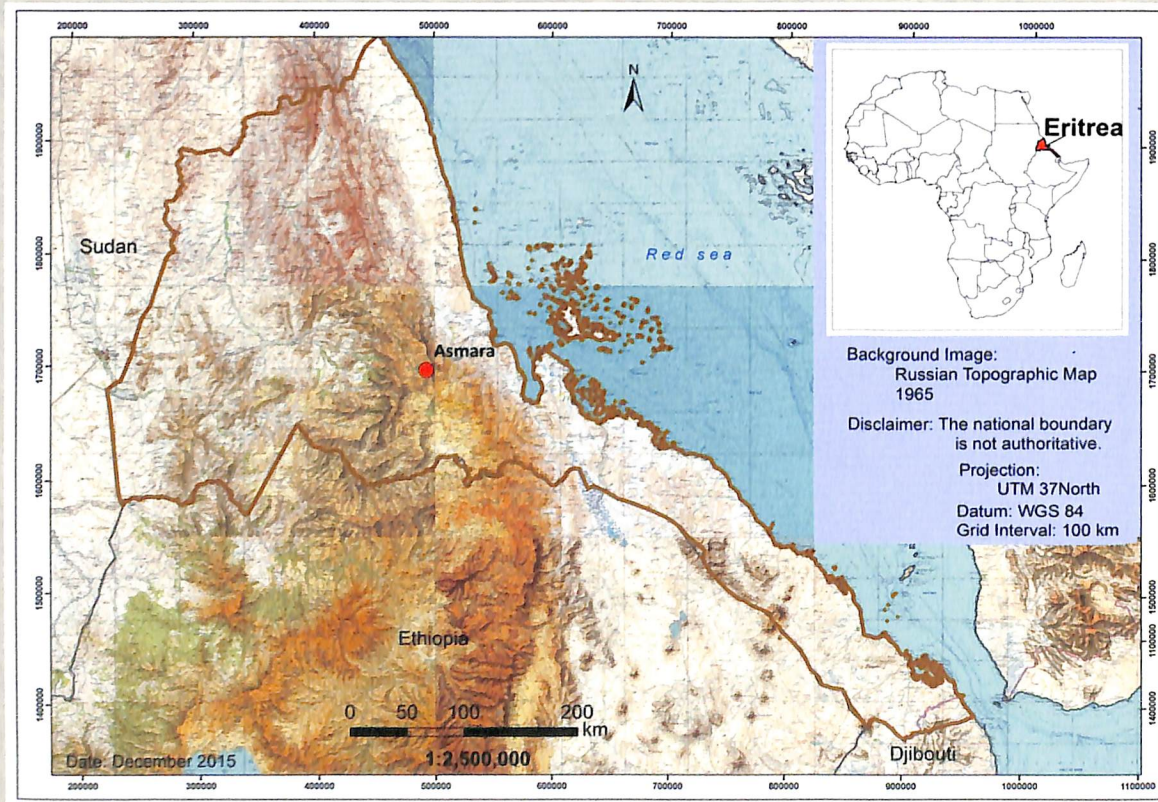


図1 エリトリア国内でのアスマラの位置を示す全国地図

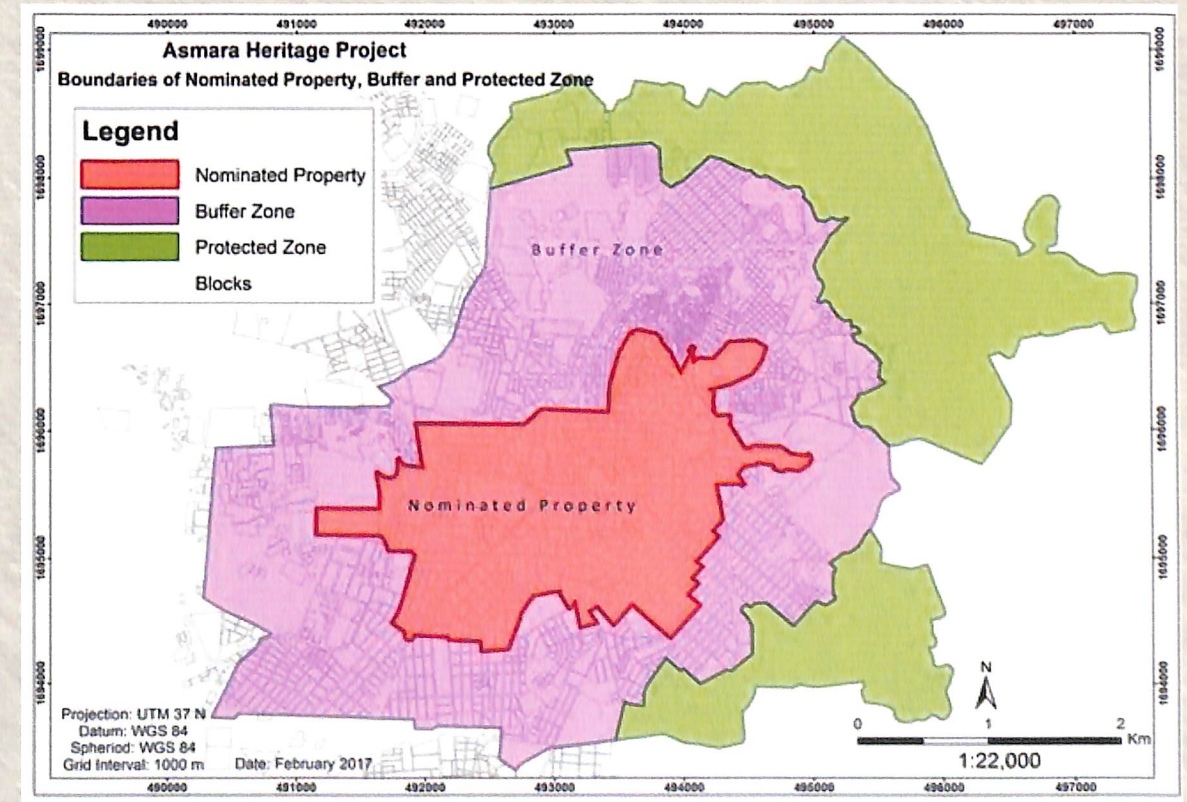


図3 境界図。推薦資産と緩衝地帯、保護地帯を示している。



3 登録の価値証明

モダニズム都市アスマラは、20世紀における世界とモダニズムの邂逅、そしてそれに続くポストコロニアル時代の経験を物語る植民地首都の優れた例である。歴史豊かな都市景観は、革新的都市計画と固有の自然・文化的条件と結びついたモダニズム建築が統合されたものである。機能別・人種別の区分けに基づいた都市計画工程は、アフリカの高地に現代的都市を作るという要求に対する、19世紀末イタリア植民地からの回答なのだ。建築物の特徴は、大戦前のモダニズムとその諸形態が世界的に拡散し芸術的絶頂期を迎えた1930年代における急速な発展の例証である。結果として、ヒューマンスケールに基づく複合的用途、堅牢な構造形態、明確な境界をもつ公共空間・映画館・店舗・銀行・宗教的建造物・公共機関と私企業を含む諸活動によって特徴づけられる都市景観の全体像ができあがった。アスマラの統合性と正当性、美的・文化的価値は長期間の独立闘争の間を通じて維持され、結果的にアスマラの中心的特徴である国家意識と同化した。

3.1 評価基準への適合性証明 (Criteria under which the site is proposed)

アスマラの歴史的な中心地は、初期の総合的都市計画と、アフリカの高地という条件に逆らわず、当地の自然・文化的条件と結びついたモダニズム建築を含む首都の優れた例として登録されている。アスマラは以下の基準のもとで登録されている。

基準(ii): アスマラは、アフリカの背景におけるモダニズムとの遭遇によってもたらされた文化的影響の相互作用の優れた例を示している。その相互作用は、革新的な都市計画過程、文化・自然条件と結びつき、ヒューマンスケールに基づく独特の都市的性格を形成するモダニズム建築に表れている。

基準(iii): 保存状態のよい都市景観及びエリトリアの現代的な首都として、地域文明と植民地経験との多種多様な遭遇を通じ、固有の文化・政治的意識の長期的発展を基盤におきつつ、普遍的に希求される国家の自決能力を獲得できた稀有な事例である。アスマラはかつて確立された文化的伝統と周辺地域にまたがる貿易ネットワークの中心であり、やがて世界大戦前とそのさなか、そして冷戦期を通じて珍しいほどに多様な諸国の協議事項の中心対象となった。

基準(iv): アスマラは、20世紀初頭における建築・都市計画のアフリカの環境における推移を示す優れた事例であり、モダニズムとの遭遇に対するアフリカの背景からの回答である。都市景観における現代的都市計画・建築の統合は、土地ごとの文化的・地理的条件に適用された初期モダニズムの例となっている。アスマラの都市景観は現代的発展の主要段階と特徴を含んでいる。植民地主義と地球規模の争い、都市計画とインフラへの科学的回答、急激な技術と都市の発達、先進的な輸送と通信といったものだ。

完全性の言明 (Statement of Integrity)

すべての重要な建造物と本来の都市的配置は、全体的に保持されてきた。アスマラは歴史的・文化的・機能的・建築的に無傷の状態を保持してきた。諸要素は損傷が少なく、概して良好な状態である。唯一の否定的要素は、古い建築物が時として不適切な修復を受けていること、大きさや性質の点でそぐわない建物が20世紀末に建てられていることだ。発展への要求は絶えることがないが、2001年以来都市の中心には「歴史的周縁」が設定され、市当局が外縁部の新たな建築を

一時停止したことによって、都市の損傷は食い止められている。

土着コミュニティと関係した無形要素の完全性は、外国からの影響が絶え間なく押し寄せたにも関わらず、文化が継続する過程を通じて維持されてきた。コミュニティの人々はアスマラの一部に数世紀にわたって居住し、現代的国家意識と国家の首都にうまく同化した。

訳注
完全性 (Integrity): 世界遺産になるための要件が全て含まれ、また法律をはじめとする持続可能な保護体制が整えられていること。

真正性の言明 (Statement of Authenticity)

アスマラにおいて革新的都市計画とモダニズム建築がアフリカの文脈で組み合わせられたことは、都市計画とモダニズム建築の重要な初期発展段階を示しており、とりもなおさず高い真正性を有している。

アスマラの都市計画創案は、都市計画という現代的専門分野を確立した。一方で、続いて起こった都市のモダニズム建築は、合理主義として知られるイタリア風解釈によって特徴づけられ、大戦前のモダニズムの隆盛と重なる。続く数十年における気候・文化・経済・政治的条件は、都市の建築要素の美的・物質的・機能的価値を維持するのに与した。それらには映画館、共同住宅、ヴィラ、ガソリンスタンド、工場、教会、公共機関の建物が含まれている。言語、文化的慣習、国家アイデンティティ、場所の感覚^{*}といったものに顕著にあらわれている無形の文化要素は、経済・行政の中心地から植民地の首都へ、そして独立国家の首都へというアスマラの発展過程を通じて維持されてきた。

訳注
真正性 (しんせいせい): 文化遺産に求められる概念で、「本物であり本来の価値を継承していること」を意味する。修復などにおいては、材料・構造・工法の真実性が求められる。1994年の奈良文書では、文化の背景における真正性が保証されるという条件で、遺産の解体修理や再建などが可能であるとしている。

場所の感覚 (sense of place): 社会的・身体的・歴史的に構築された人と場所との関係性を表す用語。

3.2 革新的な都市計画工程

アスマラの革新的都市計画は20世紀初頭に立案されたが、これは都市計画という現代的分野の誕生に一致する。新しい都市計画の中心をなすのは、放射状に広がる通りであった。これは画一的な碁盤状構造の地位を奪い、その効率性と絵画的景観、劇的な眺望、市民の広場、眺めの良い空間、記念的場所の作りやすさから、ヨーロッパとアメリカの都市計画者の碁盤言語となった。放射状に道が広がる都市は建築にとって豊かな土壌であり、機能的でもあった。放射状構造は、碁盤状構造より速く効率的に普及した。アスマラの都市計画者たちは、この現代的都市計画の恩恵を認識しており、基本方針を採用した上で、碁盤状システムの諸要素と組み合わせ、地域の地勢的条件に合わせてアレンジした。彼らはゾーニングの現代的理論も採択した。ゾーニングとは、同時代の田園都市運動の顕著な特徴である。アスマラの地勢は、アスマラ平原を貫通する火山性玄武岩の岩脈群によって形成され、柔軟性に欠ける碁盤状システムにはそぐわなかったのだ。同時代における都市計画の理論と実践の発展と同じく、土地固有の物理的・文化的条件がアスマラの物理的特徴を国際的に知らしめたのである。この独特のアフリカ的背景において、地域の自然・文

化的条件が現代的都市計画と融合し、アフリカ大陸最初のモダニズム都市を作り上げたのである。

アスマラは一回限りの都市計画による産物ではなく、革新的都市計画が継続した結果の産物である。エリトリアにおけるイタリア支配の最初の30年間は、アスマラの急速的発展と真のモダニズム都市としての物質的充実に基盤を与えた。1896年から1922年の10年間、さまざまな都市計画が立案され実行された。この時期の計画は、植民地都市アスマラの今後の都市計画を予告する典型的要素に絞っていた。20世紀の最初の10年間、アスマラの発展は面白みに欠ける碁盤状システムによって特徴付けられていた。碁盤状システムは都市景観に秩序を与えるための仕組みであり、アメリカにおいては現代的都市計画の特徴だった。19世紀にはヨーロッパの植民地支配者たちが熱心に取り入れ、人種計略の一環にまでなった。1902年の計画は公衆衛生の改善を主目的としていたが、カンボ・シタトの周辺にできつつあったイタリア人コミュニティにのみ限られ、その他の公共事業には重きが置かれることはなく、土着地域は無視されていた。しかし、1908年の計画では、都市全域が対象になり、新しいゾーニング(目的別地域区分)理論が適用された。1908年に、四つの都市居住区が定義された。ヨーロッパ人限定区域、ヨーロッパ人と外国人からなる「混在」区域、地元民区域、工業区域である。翌年、各区域の詳細な発展計画が認可された。1913年の計画の形式主義は1916年に描かれたCavagnariによる絵画作品に見てとることができる。こういった都市計画の目的は、地元民をおさえつけ制御する一方で、イタリア人に対して快適かつ機能的な都市環境を提供することであった。

1938年に建築家のVittorio Cafieroが別の基本計画を準備していたとき、彼はムッソリーニによって課せられた新しい人種法を意識し、都市を「整然かつ機能的」にする変化を必要とした。計画を実行するにあたり、Cafieroは都市の区分を強調して、さまざまな機能的区別を与えた。商業・興業・居住・遊興区域のバランスを取るために実際の配慮をする必要はあったが、計画の中心は人種の分離であった。これらすべての都市計画は都市構造の形成に寄与し、計画の時間的・文化的過程の総体的産物なのである。

3.3 モダニズム建築

アスマラのモダニズム建築は、世界において同分野の最も完全な集積の一つである。アスマラは全体が調和した都市であり、モダニズムのきわだった構成要素、つまり合理主義発達期の例証である。1935-1941年にかけて設計建築された数百の建物は、合理主義の特徴を備えている。その特徴はイタリアで、Giuseppe Terragniの手によるComoのNovocomumアパートメント(1927-29)の設計に登場し、1936年には同じくComoにあるTerragni設計の名高いCasa del Fascioの完成で頂点を極めた。合理主義の設計はマシンエイジ(機械時代)の精神も内包し、美的純粋さや、建築形態・量感・立体感における幾何学的簡潔さを妥協することなく押し出した。アスマラの合理主義者建築の決定的特徴は、純粋な幾何学的量感、非対称にして抽象的な形態、そして映画館・店舗・銀行・宗教的建造物・公共機関と私企業・産業施設・住宅における装飾の欠落に見てとることができる。

ヨーロッパにおいては、モダニズム建築はガラスとコンクリートという新しい建材によって表現されたが、エリトリアではそれらの建材が比較的高価だったため、多くのモダニズム建築は地

元産の建材を使いつつ、モダニズム的外観となっている。強化コンクリートは入手可能であり使われることも多かったが、アスマラの建物の多くは石灰の漆喰で下塗りされた地元産の玄武岩を用いてコンクリート建築風の外観にしてあり、あるいは伝統的な建材を用いて建てられたにも関わらず、機械時代(マシンエイジ)にふさわしいモダニズム的幾何学的形態になっている。

アスマラの建築物の独特の価値は、合理主義の流行にのみ由来するものではない。Novecentoのようなモダニズム建築の初期表現、古典、ロンバルディア、ロマネスク、ルネサンス、ゴシックを想起させる新伝統様式、さらには土着の形態はもちろん、フューチャリズム(未来派)を含む他のモダニズム的表現形式も有している。それゆえにアスマラ建築の特徴は多岐にわたり、20世紀初期に伝統からモダニズムへと建築が変化したことを明白に表している。

20世紀初期の特徴である建築の折衷主義は、1935年のイタリアによるエチオピア侵攻によって一掃されたが、これは1941年にイタリアが連合国に敗れたことで幕を引くまでのモダニズムとの劇的な遭遇を告げるものだった。1935~1941年の間に設計建築されたモダニズム建築の量と広範な分布は、建築と都市計画の発展だけでなく、人類史においても重要な段階を示す都市景観の優れた例を作り上げたのだ。アスマラは、建築におけるモダニズム的発想とヨーロッパ的計画がアフリカにおいて具現化されるための舞台を提供したのだ。ひるがえって、第二次大戦前夜のヨーロッパでは、関心と資源は創造から破壊へと向けられていたのだ。アスマラの建築遺産は、その後続く出来事によって世界から隠された。都市の完全性は高まりもしないものの、無形遺産へとつながった。

3.4 アフリカの背景

アスマラは、革新的都市計画とモダニズム建築の物理的な特徴を備えているだけでなく、モダニズムとの遭遇によってもたらされた文化的影響の相互作用の好例である。構築された環境は、数十年にわたる外国勢力や入植者との絶え間ない相互作用を通じて、土地固有の文化・地域的アイデンティティを包含している。このことは、普遍的に希求される国家アイデンティティの獲得という形につながった。アスマラの歴史豊かな都市景観は、モダニズム発展の重要な段階とその主要な特徴(植民地との遭遇、急速な技術と都市の発展、輸送・通信手段、文化と政治の意識、紛争と国家アイデンティティ)を含むだけでなく、地元が存在する先例に由来する高度に革新的で実験的な建築物の例を有している。つまり、アスマラは20世紀における経験、1991年の独立に続いて国家首都になるという人々の波乱の経験によって特徴づけられた調和した都市・文化的景観として見ることができるのだ。エリトリアの国家アイデンティティの政治的・精神的中核をなすものとして、国民がアスマラを特徴づけてきたのと同様に、アスマラは国民を特徴づけるための一助となっているのである。



4 アスマラの都市管理

4.1 中央行政庁

中央行政庁はその管轄区域におけるすべての保存維持活動の管理にあっている。中央行政庁の管理下において、公共事業推進部 (DPWD) は主要な部署であり、その扱う対象は都市開発、インフラ、道路網と歩道の保全、新旧両方の建物工事の裁可、都市全体の建設作業の監督、専門的資料のアーカイブ化である。職務遂行のため、DPWD は3つの部署に分かれている。

- ・ 建築監督課
- ・ 道路保全課
- ・ 都市計画課

これら3つの部署は、それぞれがはっきりした役割と責任を担っている。建築監督課は、建物の設計と建築許可に責任を持ち、入居許可も含むさまざまな工事の認可に責任を持つ。すなわち、建設作業と建設の遵法性を監視監督する。道路保全課は現存道路と新規建設道路の保全、交通管理、道路標識の設置、街灯を担当している。都市計画課は都市の発展戦略を部分全体を問わず推進し、計画の遂行を担当する。都市発展計画に不可欠な計画、社会経済、人口動態に関する関連データの収集と分析し、作業を調査し割り当て、歴史的建造物に関するデータを収集して編集する。

4.2 アスマラ遺産プロジェクト (AHP)

新たに設立された部署であるアスマラ遺産プロジェクト (AHP) は、世界遺産リスト記載のための推薦書、総合管理計画 (IMP)、都市保存全体計画の準備を担当している。IMP はまた、歴史的区域外辺の監視監督において AHP の権限を拡張するように求められている。最近設立されたもう一つの重要部署は計画運営委員会であり、関連事業を保護するための戦略指針を示す役割である。AHP は 2016 年、アスマラにおける総合管理計画 (IMP) を作り上げた。IMP の主たる目的は、推薦を受けた場所の持続可能な管理を推進し、顕著な普遍的価値 (OUVs)^{*} が維持され、未来の世代に受け継がれるようにすることである。IMP の全体的目標は、適切な維持戦略・行動計画の施策・すべての関係者による遺産管理体制を通じて、遺産の維持・保護・安定のために適切な管理体制が整えられ、滞りなく遂行されるようにすることである。

IMP は推薦を受けた遺産の維持と保護に関して、将来的展望・全体目標・指針・戦略の概要を示している。IMP の遂行にあたって主要な戦略分野となる領域は、10 のテーマに分けられる。

統合的維持計画

歴史的建造物の維持

インフラとサービス

修復と再生

移動と交通

社会経済の発展への要求

観光と訪問者管理

保護区域

リスクへの準えと災害の軽減

組織と人員の能力向上

個々のテーマには、それぞれの原理と計画、計画遂行・監視・評価戦略と行動方法がある。IMP はまた、現存の遺産管理のための現組織体制、国家・地域レベルでの各組織の協同、IMP 遂行のためのコミュニティ参加、能力の向上、遂行計画も重視している。遺産管理責任に適切な団体組織を設立することによって、これは達成される。これから設立される団体組織は、政府・民間・地方・国際組織によって、そしてさまざまなコミュニティの参加による支援が必要となるだろう。さらには、適切な財源と十分な数の人員によって支援されることが必要である。

エリトリアはアスマラの歴史豊かな都市景観を保護管理するための手段を講じた。AHP は推薦資産の管理・監視に必要な基本情報をそろえるため、広範な調査を行った。推薦資産と緩衝地帯に含まれる建物・インフラ・公共空間の完全なリストは、2014 年初頭から 2015 年末にかけて AHP 主導で作成された。このリストは、保存状態を全体的に評価するための基礎となり、将来における修復と維持のための基準状態を示すものとなる。4300 を越える建物、257 の道路、38 の公共空間が 2015 年末に調査された。この調査は、すべての資産建物、道路、インフラ・公共空間を全体的に評価する意図でなされたのである。地理情報システム (GIS) を用いた建造物遺産データベースは、保存状態管理の補助手段として立ち上げられた。建造物遺産リスト掲載の記録は、建造以来の記録と実際になされた介入はもちろん、建造物、道路、公共空間の現在の状態も含んでいる。AHP はまた、広範囲のコミュニティによる参加行動を組織化した。アスマラがユネスコ世界遺産リストに立候補したことを広報するために、3つの言語(ティグリーニャ語、アラビア語、英語)によるパンフレットが用意され、さまざまな会議や展示会において民間人に配布された。さらに、関係者によるさまざまな会議やワークショップが開かれ、グループでの討議の場が設けられた。この過程の結果として、エリトリア EXPO(数十万人の訪問者を記録)における四回連続の展示会を含め、幅広い分野の関係者が参加し、地域住民と協議することになった。また、複数言語でパンフレットが配布され、テレビ・ラジオ・新聞などメディアでのインタビュー、ワークショップの開催、エリトリア人ディアスポラ(海外に移住したエリトリア人)を含む世界中の人々に対する集中的な広報もなされた。

訳注

顕著な普遍的価値 : outstanding universal values(OUVs)。化財・自然的環境が世界遺産リストに登録されるには、「顕著な普遍的価値」を有することが条件となる。



アルファ・ロメオ社(1937)

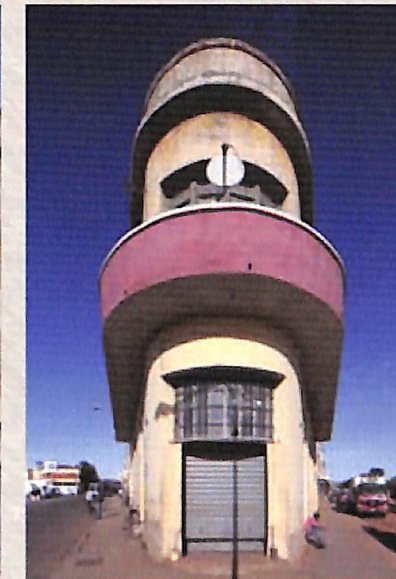


5 結論

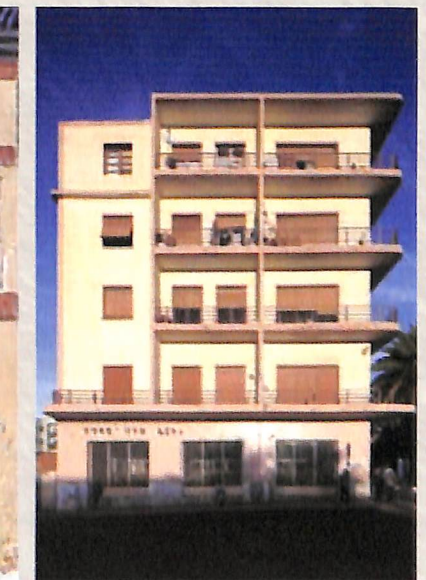
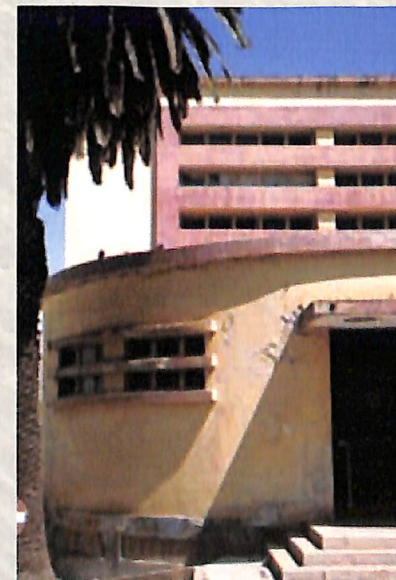
モダニズム建築・都市計画・普遍的に希求された国家の自決能力を獲得した傑出した事例を世界遺産へ申請することは、自国文化資産の国際的認知を求めるといっただけではない。アスマラの推薦は文化背景と遺産に対する批判的内省を世界に促し、地域の安定と繁栄を促進する好機でもあるのだ。加えて、アフリカ人とモダニズムの存在感を高めるユネスコの世界戦略の一助となる潜在能力を、アスマラは有しているのだ。



シネマ・インペロ (1937)。Mario Messina 設計。



アスマラ世界遺産プロジェクトにより用意



© Asmara Heritage Project. Photographs by Edward Denison.

Embassy of the State of Eritrea to Japan
4-7-4 Shirokanedai, Minato-ku, Tokyo, #108-0071
TEL :+81 (03) 5791-1815 FAX :+81 (03) 5539-3483
E-mail :info@eritreaembassy-japan.org
website :<http://www.eritreaembassy-japan.org/index.html>

Sponsored by SEISA Group / Foundation for Global Children